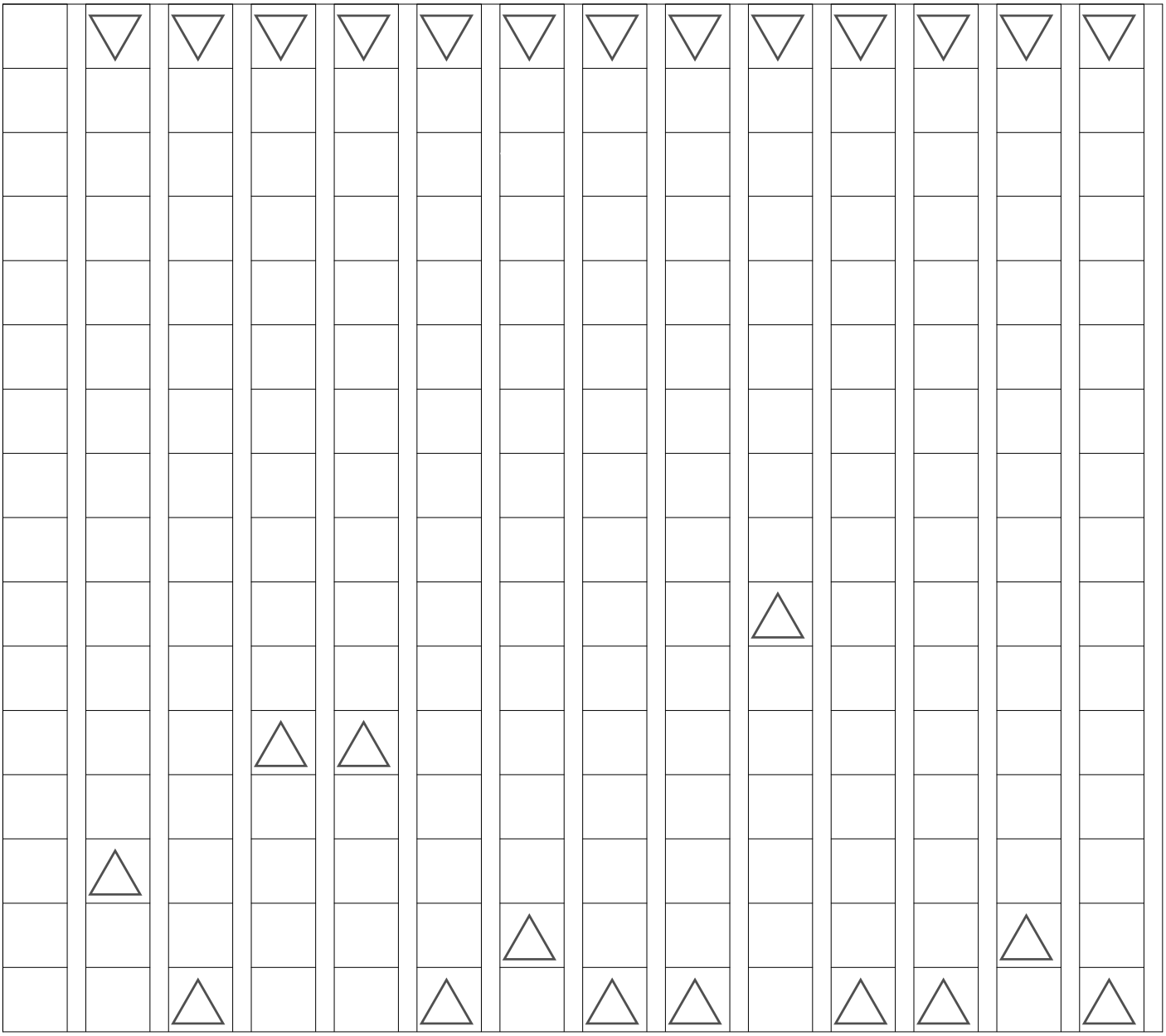
視写　名前【　　】

「あどけない話」高村　光太郎

ちえ子は東京に空がないという
ほんとの空が見たいという。
わたしはおどろいて空を見る。
さくらわかばの間にあるのは、
切っても切れない
むかしなじみのきれいな空だ。
どんよりけむる地平のぼかしは
うすもも色の朝のしめりだ。
ちえ子は遠くを見ながら言う。
あたたら山の山の上に
毎日出ている青い空が
ちえ子のほんとの空だという。
あどけない空の話である。